

お互いさまと思える茨木に！
生活者の視点を政治に！



あびこ浩子連絡先

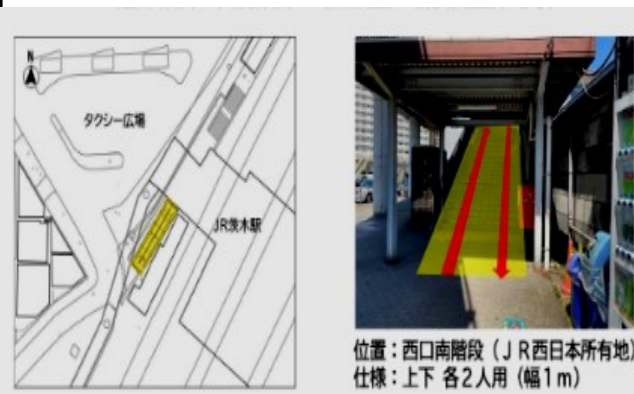
電話・FAX 072(655)8460 (留守時はメッセージをお願いいたします。)

Email: contact@hiroko-abiko.jp
茨木市穂積台
<https://hiroko-abiko.jp>



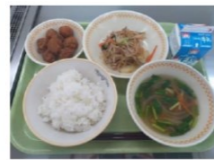
JR茨木駅西口エスカレーターについて

JR茨木駅西口周辺整備の進捗状況ですが、なかなか進んでおらず、せめて西口エスカレーター設置だけでも、先に取り組みをお願いしたいとずっと要望してきた経過があります。
令和6年9月：JR西日本と基本的事項に関する協議書を（設計・施工・維持管理は市負担）
令和6年11月：エスカレーター設置等実施設計業務委託契約（基本設計・実施設計・地盤調査・補償調査算定等）
工事は令和8年度より、完成は令和9年度未予定です



茨木市中学校給食センターが完成

茨木市では、生徒の健康の保持増進と食育のさらなる推進に向け、令和7年1月14日(火)から、市内全14校の中学生を対象に、全員給食の提供を開始します。開始にあたり、地域の皆さまや関係者などへの感謝の意と、中学校給食センターへの理解を深めていただくため、竣工式が開催されました。茨木市中学校給食センター(茨木市彩都はなだ一丁目3番50号)給食は、弁当箱方式ではなく、各校に食缶でお届けし、食器に配膳するため、一人ひとりに合わせた量の調整が可能になります。また、保温性の高い食缶を採用するため、料理ごとに、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供できます。
〈食物アレルギーの対応〉：アレルギー対応食として、卵、乳の除去食を提供します。なお、除去食は、対象生徒専用の保温ジャーで届けます。
中学校給食の無償化：中学生の時期は、義務教育の中でも特に保護者の経済的負担が増えることから、全員給食にあわせ、中学校給食を無償化します。また、食物アレルギーで年間を通して給食を一切食べない生徒については、補助金を支給します。



毎週火曜日・木曜日JR茨木駅西口下、水曜城南茨木駅東口、金曜日阪急茨木市駅東口南側でご挨拶と「週刊通信」を配布させていただいています。お会い出来たらお声をかけていただけたら嬉しいです！「あびこ浩子ゆめ・みらい通信」は定例議会報告版と週刊通信版があります。過去のものはHPで読むことができます。是非ご覧ください。議会報告版を郵送で購読いただける方は電話・FAX・メールでお知らせ頂ければ、お送りいたします(無料)。ご連絡お待ちしております。



《議会報告版》 発行日：2025年1月
編集・発行／あびこ浩子

茨木市議会議員(無所属)

あびこ浩子 ゆめ・みらい通信

Facebook：あびこ浩子 | WEBサイト：<https://hiroko-abiko.jp>
Email: contact@hiroko-abiko.jp



あけましておめでとうございます ～2024年12月議会のご報告～

みなさま、いつもお世話になっております。あびこ浩子です。
2025年！あけましておめでとうございます。新しい年が始まりました。この1年が皆様にとりまして、明るい幸せな一年になりますように願っております。
能登半島地震が起こってから1年が経ちました。なかなか復興は進まず、この1年の間に、幾度も大きな余震が襲ってきました。また、2024年8月に日向灘を震源とする地震で、南海トラフ臨時情報巨大地震注意が初めて発表されました。災害はいつ来るかわかりません。日頃の備えが大切です。いざというときに備えてご家庭での準備、ご近所みなさまと共に支えあえる避難所運営、避難所設定、復旧復興への備えを続けることで、多くの命を守っていかねばなりません。
1月17日がめぐってきます。阪神淡路大震災から30年。私はあの日明け方に、生まれて1か月の長男を授乳して寝かせてしばらくして、遠くから地鳴りが聞こえてきたな、と思った瞬間、ジェットコースターに乗っているような大きな揺れになりました。その後いつも昼夜途切れることなく聞こえている名神高速道路からの車の走る音が全く聞こえなくなりました。あの時に多くの命が失われたことを決して忘れてはならない、次世代に伝えていかねばならないとの強い思いがあります。

大阪府内ではインフルエンザの患者数が急激に増加しています
府は手洗いやうがいの徹底などを呼びかけています。大阪府感染症情報センターによりますと、12月15日までの1週間に、府内305の医療機関から報告されたインフルエンザの患者数は前の週の3066人より2倍以上多い6599人でした。1医療機関あたりの患者数は21.64人で、前の週に続き「注意報レベル」の基準を超えています。一方、府内では夏以降、マイコプラズマ肺炎の感染者も増加していて、現在の集計方法になった1999年以降で年間の感染者はすでに最多となっているということです。インフルエンザもマイコプラズマ肺炎も基本的な感染対策は同じということで、府は、**手洗いやうがい、マスクの着用などの徹底を呼びかけています。**



2/15(土)AM10～ 市内全小学校区

- 【あびこ浩子プロフィール】
- ◆ 玉櫛小・南中卒業／1980大阪府立千里高校卒業／1984関西大学文学部卒業／2008大阪市立大学大学院創造都市研究科共生社会研究分野修士課程修了／大学時代銭原キャンパスでカウンセラーとして活動
 - ◆ 1984高槻市立第7中学校教諭／1987茨木市立三島中学校へ転任1990退職／2000沢池幼稚園PTA会長／2002穂積小PTA会長／2006茨木市PTA協議会会長／2004NPO法人Chacha-House 代表理事／2006穂積小校区青少年健全育成運動協議会会長／2006NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事／2011穂積地区自主防災会会長／2012穂積地区福祉委員会副委員長／2020穂積地区福祉委員会顧問
 - ◆ 2008・4茨木市議会議員補欠選挙で初当選／2009・1選挙2期目当選／2013・1選挙3期目当選／2017・1選挙4期目当選／2021・1選挙5期目当選
 - ◆ 穂積地区在住

あびこ浩子
ゆめ・みらい通信

2024年12月定例議会報告



ネット中継・過去の動画も茨木市HP(茨木市議会)でご覧いただけます。

今年度は総務常任委員会委員、市街地対策特別委員会委員長、北部地域整備対策特別委員会委員、茨木市総合計画審議会委員、会派代表幹事長として活動しています。

骨髄ドナーへの支援について

ドナー登録された方からのご意見をいただきました。ホームページを調べたところ、茨木市の骨髄ドナーへの支援では助成制度がないということでした。そこで、私も近隣各市と比べてみましたら、違いが分かってきました。

骨髄ドナーは、15歳以上54歳以下で健康状態が良好な方が登録することができます。ドナー登録後、白血球の型が適合すると。骨髄バンクから適合のお知らせがあり、問診票に回答後、2~4週間以内に確認検査、その後2~4か月の間に最終同意、術前健診、採取準備を経て、骨髄採取となります。骨髄採取には4日~6日の入院が必要となります。

骨髄提供によるドナー支援制度には、給付金が支払われる一部保険)や企業における「ドナー休暇制度」学生を対象とした「ドナー公欠制度」自治体等における骨髄ドナーや骨髄ドナーを雇用する事業者に対する助成制度があります。

地区保健福祉センターの評価について

令和7年4月から、茨木市上郡2丁目に北保健福祉センターが開設されるということです。ここが開設できたら、5圏域全部に設置されることとなります。

東保健福祉センターが開設され、その後、南保健福祉センターが開設されるにあたり、東保健福祉センターの取り組みを振り返る評価基準を定めて、次に活

茨木市においてはこの助成制度がなく、ドナー登録を増やすための啓発・広報に取り組んでいます。

大阪府内では48市町村のうち18市で助成制度があり、北摂各市では、豊中市、箕面市、高槻市、摂津市において、骨髄ドナーとなられた方へ入院1日当たり2万円、上限14万円、その方を雇用している事業者に対して1日当たり1万円、上限7万円、池田市は骨髄ドナーとなられた方に1回あたり10万円の助成をおこなっています。

実績について池田市の例でみますと、令和3年5件、令和4年4件、令和5年1件ということで、ドナーがマッチングすることの難しさが伝わってきます。

骨髄を待つ患者さんにとっては、命にかかわることですので、支援があることで、マッチングしたにもかかわらずお断りする事態にならないよう、茨木市においても是非助成制度に取り組んでほしいとの要望をいたしました。

かすこととなってしまいました。今回、初めて保健福祉センターの評価指標が明らかになり、自己評価が実施され、ホームページに公表されました。

今後は実際に利用されている関係者の方や市民の方からの、評価も聞いていただき、より身近な相談支援機関として運営していけるよう取り組みを進めて欲しいと要望いたしました。

移動困難な方への支援について



高齢者の方から特に聞かれますのが「バスの運行数が減った」「バスの運行がなくなった」「タクシーの予約ができない」といった、移動についてのお困りです。病院の予約は午前中が多く、タクシー予約ができない場合、ケアマネさんが『介護タクシー』を予約されることが近頃多いと聞いています。(介護タクシーは現時点予約しやすいようです)。

私自身この4年間、担当課である「交通政策課」との協議を幾度も重ね、他市の事例をいくつも見学に行きました。地方のまちでは過疎化が進み、交通量も多くないところでは、自動運転のタクシーが稼働しているところもありました。デマンドタクシーに取り組むまちにも行かせていただきました。そのどれも、実証実験では、乗車賃が無料である間は利用者がいましたが、いざ運航開始して料金が発生すると、乗る人が減り、赤字となり継続が困難になっているところが多く、「うまくいっている、赤字ではない」というところには、いまだ巡り合っていません。税金で赤字補填している状況で、都市部(茨木市)でそのような補填をすれば、現在運航しているバスやタクシーの経営を圧迫し、結果として今以上にバス路線の撤退やタクシー会社の経営困難を加速させてしまいかねません。そのあたりの協議を交通事業者としながら、交通手段の取り組みを進めていかねばなりません。

公共交通ではない、身近な人たちの送迎、という形(子どもたちの塾の送迎、病院の送迎バスのような形)もあります。ただしこれは1回ごとの運賃はとれません。現在、社会福祉協議会が実施している「コミュニティカーシェアリング」のような形です。茨木市が北部地域で取り組んだ実証実験もこの形です。

また、乗り合いでタクシーに乗ることも可能となりましたので、幾人かで声かけあって一緒に移動するという形ならタクシーの数が少なくても対応でき、数人で運賃をシェアすれば安く乗れるという利点があります。ただ、誰と待ち合わせて、いつどこに一緒にいく

ためにタクシーを呼ぶのか、という点が難しいです。箕面市が実証実験を始められます。

国の予算を活用して乗り合いタクシーで一緒に乗る人をマッチングするアプリ開発をしている都市もあり、それが成功すれば全国的に使えるようになるのではないかです。

移動支援は全国的な課題です。それぞれの地域にあった解決策を探していくしかありません。茨木市にあったやり方、また、その地域にあったやり方をいっしょに考えていこうと思います。

<これまの見学先>

- 広島県福山市「高齢者外出支援」運行はボランティア
- 東京都羽村市「コミュニティバスはむらん」日野自動車があり、その支援がある。運賃赤字補填1億5千万。
- 熊本県熊本市「公共交通基本条例」デマンドタクシー(不便地1か所)、地域主体の取り組みをバックアップ、採算の取れないバス路線(1便に2名の利用程度)の維持のため補助金3~4億円
- 愛媛県四国中央市「デマンドタクシー」デマンドタクシー導入時に路線バスを一部廃止、予約制のため予約がなければ走らない。県補助金・国補助金利用
- 徳島県徳島市「応神ふれあいバス」10人乗りジャンボタクシー、運営は地域住民主体、はじめは利用が多かったがだんだん利用が減ってきている、収益が25%を切った場合は廃止との規定
- 埼玉県加須市「移動スーパー支援事業」ブロンズ会議(生活支援体制整備事業の協議会)で交通不便地の買い物支援を実施。スーパーのない地域への出張販売。5年間継続が前提。車両取得補助金あり。冷凍無し。事業者は1日10万円以上の売り上げが必要だが、実際には一人当たり売上約1000円。デマンド交通は高齢者施策としてではなくだれでも利用できる仕組み

建設常任委員会より市長に提言

建設常任委員会が、令和6年11月11日に、市長への提言書として「道路運送法に基づく地域公共交通会議、地域公共交通活性化再生法に基づく法定協議会など、地域公共交通に関する協議の場を確保すること」をはじめとする、3つの提言をまとめています。